

- 本年9/16 AM11時頃、南島の鮫池において、南島にプレジャーボートが沈没。

南島に乗客・ガイドを上陸させた後、鮫池内に設置されている係留ブイに係船したところ、突然船が走り出し他のボートに衝突、更に南島の岩壁に衝突した。

他の事業者が曳航したが、途中で沈没。

- 衝突地点のラピエの損傷は、うっすら白くなっている箇所がある程度で、外見上ほとんど目立たない状況。

- 沈没直後はオイル漏れもなく、気泡と共に油滴が出てきていたが、海面を漂う状態ではなかった。環境省から海上保安庁（小笠原海上保安署）に対して、「影響を受けている海鳥などがないか」の確認を依頼。

※二次被害防止のため、現場への接近は必要最小限の関係者のみとされた。

- 当初、小笠原海上保安署を会長とする「小笠原管内排出油等防除協議会」は、会員（環境省、小笠原支庁、小笠原村等）への情報共有は行うが、オイルフェンスの設置は「検討する」としていた。

そこで、希少連（環境省及び小笠原村）から「予防原則」に基づくオイルフェンスの早期設置を小笠原海上保安署に依頼。漁協遊漁部やガイドの協力も得て、9/18に設置された。



鮫池に設置されたオイルフェンス

（写真：小笠原管内排出油等防除協議会）

# 南島における沈没船への対応について

■9/29に船主が沈没船を浮上させて父島まで曳航し、陸揚げ。オイルフェンスも撤去。

■9/30AMに、鮫池北西部に軽油が集まって浮遊している状況が確認された。

環境省から小笠原海上保安署に確認したところ、「海水温が28.8°Cかつ直射日光もあることから、一両日中に揮発すると判断しており、『航走拡散』などは実施しない」との回答。結果、翌日には揮発して消滅。

■今回は揮発性の高い軽油であったが、船舶事故では、海鳥への影響が大きい重油などの事故も想定される。

そのため、環境省で「小笠原諸島油等汚染鳥救護研修」を10/22に開催。小菊獣医師・日下部看護師、IBOの協力のもと、座学と実技講習を実施。

■「小笠原管内排出油等防除協議会」においても、11/11にオイルフェンス展張訓練を実施。



船舶撤去後に確認された軽油の油膜  
(写真: ©小笠原自然文化研究所)



油等汚染鳥救護研修の様子